

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名:

附属図書館

部局長名:

甲賀 研一郎

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>リアルとバーチャルの利点を活かしたハイブリッドな図書館機能の強化のため、来館を前提とした従来型と、非来館・非接触による新しい方式を組み合わせた各種学修サポートを実施する。くわえて、学修支援に必要な冊子体資料を整備すると同時に、遠隔授業及び非来館型自学自習に活用可能な電子リソースを充実させる。</p>	<p>●新型コロナウイルス感染症に係る本学の方針に対応して、閲覧席の増席、オンライン接続用の発話可能なブースの増設、グループ学修室の再開、学外者の入館再開、マスク着用の緩和など、柔軟に来館型の図書館サービスを提供し、学生及び教職員のニーズに応えた。 ●オンライン授業における文献検索ガイダンスやデータベース等の利用講習会を対面(リアル)及びオンライン(バーチャル)で実施し、計48回の開催に延べ1,640人の参加を得た。また、図書館やデータベースの利用等に係る動画を17本作成・公開し、昨年度までに公開した7本とあわせて計24本の動画に810回(4~2月)の視聴を得るなど、非来館・非接触による学修サポートを実施した。 ●遠隔授業及び非来館型自学自習を支援するため電子書籍534点を受け入れた(2月末実績。前年度同時期550点)。全学戦略的経費による支援もあり、電子書籍化された教科書(シラバス掲載図書)については、非常に高額なものをのぞいて整備できた。ただし毎年の1.6%係数による予算減や、高騰する光熱費補填などの影響で、冊子体を含む全体の資料費の状況は厳しく、さらなる経費節減や予算確保が今後の課題となる。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>学生、教職員、地域住民など多様な利用者によるイノベーション・commons(共創拠点)化を目指し、展示会やセミナー等を、リアルとバーチャルを適切に組み合わせた方式で開催、交流の場としての活性化を図る。 本学の学術研究成果のオープンアクセス化や、貴重資料のデジタル化、岡山大学出版会の活動を通して、本学の教育・研究成果を広く社会に向けて発信する。</p>	<p>●学内外の機関等と連携協力し、公開講座(9月)、池田家文庫絵図展(10~11月)、知好楽セミナー(12月)、池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ(3月)、館内展示企画(4企画)を実施した。特に、公開講座と知好楽セミナーについては、対面とオンラインを交えたハイブリッド形式で開催、リアルだけではなく、バーチャルもあわせて、多様な利用者との交流促進を図った。 ●SpringerNature社をはじめとする5社と令和5年度電子ジャーナル転換契約を締結した。転換契約とは、電子ジャーナルに係る支払いを、購読料から論文掲載料に転換させることを意図した契約で、アクセス権に加え、OA(オープンアクセス)出版枠が付与される。2月末現在で、すでに10報がOA出版されるなど、オープン化促進が図れた。 ●国文学研究資料館及び県内自治体(真庭市)との連携協力により、貴重資料の公開を推進した。特に、国文学研究資料館については、「データベース構築に関する覚書」(令和3年9月)に基づいて「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業に協力し、池田家文庫マイクロフィルム302本(収録資料4,152点)からのデジタルコンバートを行った。公開は令和5年度に行う予定である。また、同事業により令和3年度に電子化した池田家文庫資料62点について、11月に公開、共同プレスリリースを行った。 ●岡山大学出版会ホームページのリニューアルを行い、検索機能を追加するなど、出版物を探しやすくした。</p>
<p>④管理運営領域</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>新たに策定された全学的な内部質保証体制のもと、附属図書館の点検・評価及び企画立案を行い、大学経営戦略会議へ報告する。その検証を受けて改善に取り組む。 災害・感染症等への対策を強化し、館内を安心安全な空間として整備する。</p>	<p>●内部質保証規則に基づき、附属図書館運営委員会にて自己点検・評価を行った。評価結果及び検証結果(評価センター)は、いずれも「適切」であった。 ●集中豪雨・台風期における対応マニュアルを整備、図書館職員全員が閲覧できる共有フォルダに保存した。緊急時の役割分担等について再確認したほか、排水溝等の現地確認を行った。</p>
<p>⑤センター・機構等業務</p>	<p>管理運営領域の目標の達成状況</p>
<p>全学的なデジタル・キャンパス化の一翼を担うため「総合知」の創出・活用を支える学術情報の統合利用環境の整備に係る取組(全学戦略的経費)の実施をはじめ、機関リポジトリと研究者マッチングシステムとの連携等、DXを推進する。 「第4期中期目標期間における電子ジャーナル等の整備方針」(令和2年12月25日学長裁定)に基づき、第4期後半の整備に向けた検討準備を行う。</p>	<p>●「総合知」の創出・活用を支える学術情報の統合的利用環境の整備に係る取組(全学戦略的経費)として、ディスカバリーサービス「OU OneSearch」導入、機関リポジトリ等のディスカバリーサービス対応、電子書籍の整備拡充を行った。これにより利用者が求める様々な学術コンテンツを、素早くかつ正確に発見することが可能となった。 ●全学的な研究データ利活用の検討・推進体制に参画、機関リポジトリと研究者マッチングシステムとの連携等は、この枠組みの中で進めていく。 ●電子ジャーナル転換契約に伴い、安価な著者負担(5万円/報)により、OA出版を可能とする論文掲載料支援制度を1月から開始した。著者負担金は、高騰する電子ジャーナル等契約料の補填とする。また、SpringerNature社との転換契約は、研究大学コンソーシアム(RUC)のメンバーを中心とする10大学によるパイロットプロジェクトであり、国内のジャーナル問題解決に向けた取り組みのひとつとして期待されるものである。第4期後半の電子ジャーナル等整備に向けて、転換契約の拡大も視野に入れ、価格(論文掲載料含む)、利用状況等の情報収集及び整理を進めている。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。